

児童生徒の「内面の育ち」に着目し、 「十分な教育」の実現を目指すキャリア発達支援

企画者 菊地 一文 (植草学園大学)
司会者 菊地 一文 (植草学園大学)
話題提供者 藤川 雅人 (青森県教育庁)
山本 仁 (金沢大学附属特別支援学校)
川口 信雄 (横浜わかば学園)
指定討論者 長沼 俊夫 (日本体育大学)
丹野 哲也 (文部科学省)
KEY WORDS : キャリア発達 内面の育ち 十分な教育

【企画要旨】

本シンポは、2009年から企画・実施してきた「特別支援教育におけるキャリア教育」の9回目として位置付く。これまでのシンポではMarland(1974)の教育改革の理念に基づき、多様な学校課題の解決策としての可能性や評価の在り方、インクルーシブ教育システムの構築における役割、その体制整備を進める教育行政の取組等をテーマに採り挙げてきた。

特別支援学校等においては、シンポの開始と同時期から実践研究やキャリア教育の推進が図られ、知見が積み重ねられてきたが、その到達点の一つとして「内面の育ち」への着目が挙げられる。「内面の育ち」への着目は、従来から課題として挙げられてきたテーマである「障害が重いと言われる児童生徒のキャリア教育」にも通ずるものであると捉えられる。

本シンポでは「内面の育ち」に着目した3つの話題提供に基づいて、児童生徒の「内面の育ち」の捉え方について検討するとともに、支援する教師の変化にも着目し、キャリア発達支援の充実や「十分な教育」の実現に向けた方策について検討する。討論では、内面の育ちの「見取り」の妥当性を高めるための方策やそのための条件等について検討するとともに、新学習指導要領の改訂の趣旨を踏まえたキャリア発達支援の意義、実践の在り方について協議を進めていきたい。

【話題提供の要旨】

障害が重いと言われる生徒を視野に入れた技能検定(藤川)

2015年度に始まった青森県の技能検定の独自性は、生徒の「思い」を大切に、職業技能のみならず、生徒が自分の思いをプレゼン、ポスター、パフォーマンスで表現する「コミュニケーション部門」を設定し、障害種別や障害の状態にとらわれない、幅広い生徒を対象としてきたことにある。実際に他県と異なり、障害が重いと言われる生徒が技能検定にチャレンジし、その姿は本人の成長のみならず、多くの参加者等に影響を与えている。

「キャリア発達を支援する」観点から、障害が重いと言われる生徒やそれを支える教師の側の変化について考察するとともに、これまで試行的に行ってきた評価(見取り)の方法について報告する。

内面の見取りを踏まえた各教科等を合わせた指導(山本)

金沢大学附属特別支援学校では、ICF及びキャリア発達支援をテーマに児童生徒の「内面の育ち」に着目した実践研究を進めてきた。2016年度からは、文部科学省「キャリア教育・就労支援等の充実事業」を受託し、小学部低学年では「遊びの指導」、高学年では生活単元学習、中学部では生活単元学習、及び作業学習、高等部では作業学習及び進路指導を中心に、キャリア発達支援の視点による12年間を見通した教育活動の充実・改善、及び学校の在り方について検討してきた。

児童生徒のキャリア発達を促すための教師の在り方、授業

づくり、内面の育ちの評価に加え、これらの取組を通じた学校改善の成果について報告する。

生徒の対話を大切にしたいキャリアデザイン相談会(川口)

2013年度に開校した横浜わかば学園(横浜市立若葉台特別支援学校)では、生徒のキャリア発達を促す観点から「対話」や「相談」を重視し、生徒が将来の目標を意識し、課題を解決するためのツールである「キャリアデザイン」(京都市立白河総合支援学校、2007)を導入している。また、その作成と活用にあたっては、教師や外部人材のほか、生徒同士が対話をとおして「気づき」を促し、問題解決していく力を育成する「キャリアデザイン相談会」を設定し、継続して実施してきた。

生徒が相談者と助言者の両方を経験し、自分の話を聞いてもらえるように話す力と相手の意見に傾聴する力を伸ばす中で、困った時に「相談する力(相談力)」を身に付けていくことを目指した取組について報告する。

【指定討論の要旨】

障害が重いと言われる児童生徒の「内面の育ち」の見取りと評価(長沼)

「アクティブ・ラーニング」は、教え方ではなく学び方に主眼をおくべきとの議論から出てきた。障害のある幼児児童生徒の教育においては、これまでも多様なニーズをもつ「個々人の学び方」を重視してきた。「主体的・対話的で深い学び」を掘り下げて理解していく際には、「対話的な学び方」がとりわけ重要であると考えられる。障害が重いと言われる、発語がなく表出に乏しい児童生徒への「対話的」な指導について検討することで、「深い学び」や「内面の育ちの見取り」について、理解を深めていきたい。

新学習指導要領から見たキャリア発達支援の重要性と今後求められる事項(丹野)

今般の小・中学校及び特別支援学校学習指導要領の改訂では、その総則に、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、キャリア教育を充実させていくことが規定された。さらに、特別支援学校学習指導要領では、幼稚部、小学部、中学部段階からのキャリア教育を充実させていくことや、各教科や自立活動においてもキャリア発達の視点が盛り込まれている。幼児児童生徒が学ぶことの意義や学習の意味を、将来的な自立や社会参加に必要な資質・能力と関連付けて理解していくことなど、幼児児童生徒の内面の発達やその成長を分析的にみていくことがさらに重要になってくる。

(KIKUCHI Kazufumi, FUJIKAWA Masahito, YAMAMOTO Jin, KAWAGUCHI Nobuo, NAGANUMA Toshio, TANNO Tetsuya)